〔資 料〕

児童用セルフ・モニタリング尺度の作成¹⁾

桜井 茂 男

奈良教育大学

Construction of a new self-report scale of self-monitoring for Japanese children

SHIGEO SAKURAI (*Nara University of Education*)

This study was conducted to construct a new self-report scale of self-monitoring for Japanese children and to examine the reliability and validity of the scale. Thirty-eight items in all were prepared for the self-monitoring (S-M) scale from the two different points of view according to Lennox and Wolfe (1984)'s concept of self-monitoring. They were administered to 201 fifth- and sixth-grade children together with a self-consciousness scale and personality inventory for measuring sociability and inferiority. Based upon results of factor analysis, a scale was constructed consisting of 20 items with 3 factors or subscales, i. e., information gathering, affiliation behavior, and conformity behavior. Correlational analyses reveal that only information gathering and affiliation behavior subscales have high reliability and validity.

Key words: self-monitoring, self-consciousness, children, validity.

問 題

Snyder (1974) は、自己呈示 (self-presentation)、表出行動 (expressive behavior)、言語を伴わない感情表出などをモニターする (管理、統制する) 程度には個人差があるとして、『セルフ・モニタリング (self-monitoring)』という概念を提唱した。これは、「社会的場面からの社会的な適切さに関する情報に基づいて、自分の行動を管理、統制すること」と定義される。Snyder は、セルフ・モニタリングには、1) 自己呈示が社会的に適當であるかどうかということに対する関心、2) 適切な自己表現の手掛かりとしての社会的比較情報への注意、3) 自己呈示や表出行動を統制し修正する能力、4) 特定の状況におけるこの能力の使用、5) 表出行動や自己呈示が種々の

社会的状況で一貫しているか変化するかの程度、という側面があるとして、これら5つの側面を含むセルフ・モニタリング尺度を作成した。

その後、Snyder (1974) のセルフ・モニタリング尺度に対して問題点を指摘し、尺度の改善を試みる研究がいくつか報告された。Briggs, Cheek, & Buss (1980) は、Snyder の尺度を因子分析した結果、想定された5つの側面とは異なる3つの因子を抽出した。それらは演技性、外向性、他者志向性と命名されたが、その後の研究 (たとえば、岩瀬・田中・中里, 1982) でも同様の3因子が抽出されている。Lennox & Wolfe (1984) は Briggs ら (1980) の研究をもとにさらに分析を繰り返し、『他人の表出行動に対する敏感さ』と『自己呈示を修正する能力』という2因子からなる改訂版セルフ・モニタリング尺度

1) 本研究の実施に当たっては、尾添慎二君の協力を得た。記して感謝する。

を作成した。この二つの因子は併せると、他人の行動に気を配り、そこから得られる情報に基づいて他人に対する自分の行動を調整する能力を意味しており、これらは Snyder の提唱した「セルフ・モニタリング」概念のうち(2)と3)の側面に対応するものといえよう。

また、Graziano, Leone, Musser, & Lautenschlager (1987) は、Snyder (1974) の尺度をもとにして子供用のセルフ・モニタリング尺度 (Junior Self-Monitoring Scale) を作成した。彼らは、まず Snyder の質問項目を子供にわかりやすい表現に改め、次に5つの側面ごとに新たな項目を加え小学生を対象に調査した後、項目一全体相関の高い項目を残すという方法で尺度作成を行った。

わが国では岩渕ら (1982)、堀毛 (1986) らによって Snyder および Lennox & Wolfe の尺度の日本語版が検討されている。しかし、児童を対象とした Graziano ら (1987) の尺度の日本語版はまだ作成されていないし、独自の児童用尺度も開発されていない。そこで、本研究では、Lennox & Wolfe が見いだした2因子を参考に、セルフ・モニタリングを「社会的状況からの情報を認知する」側面 (認知的側面) と「社会的状況にあうように行動を統制する」側面 (行動的側面) に大別し、児童用尺度の開発を試みるのが目的である。Lennox & Wolfe (1984) では、行動的 (現実に関与する) という行動をしている側面よりも能力的 (…できる能力をもっている) 側面に重きがおかれているように思われる。しかし、セルフ・モニタリングとは Snyder (1974) によれば、「自分の対人的行動を管理・統制すること」すなわち、「行動」を意味している。したがって、「する—しない」という行動に重点がおかれて質問紙は作成されるべきであると考えた。それ故、本研究では被検査児の認知的側面とともに行動的側面を重視した自己報告型の尺度作成が目標とされた。

なお、尺度の妥当性については、Graziano ら (1987) の子供用セルフ・モニタリング尺度で因子的な妥当性が検討されていなかったため、本研究ではまずこれを確認する。その他に、岩渕ら (1982)、堀毛 (1986) らにならない、公的自己意識、社交性、劣等感情との相関で検討する。理論的にセルフ・モニタリングは、他者によく見られたいために行うことが一般的とされているため、この傾向の高い者は公的自己意識が高く (社会的対象としての自分に気を配る)、社交性も高いと考えられる。更に、社会的にうまく立ち回っているため、劣等感情は比較的低いと予想される。

方 法

被調査者 奈良市の都市部にある公立M小学校の5年生97名 (男子52名、女子45名) と6年生104名 (男子60名、女子44名) の合計201名であった。

質問紙 児童用の質問紙は、教示、例、練習用の項目、および4つの尺度から構成された。4つの尺度とは、1) 児童用セルフ・モニタリング尺度原案38項目、2) 桜井 (1992) の児童用自己意識尺度、3) MG性格検査 (本明・久米・織田・応用教育研究所、1976) の中の社交性尺度、4) MG性格検査の中の劣等感情尺度である。2) から4) までの尺度は、従来の研究 (たとえば、岩渕ら、1982; 堀毛、1986) をもとにセルフ・モニタリング尺度の妥当性の検討のために用いられた。

児童用セルフ・モニタリング尺度原案は、Graziano ら (1987) の子供用尺度、Snyder (1974) および Snyder & Gangestad (1986) の大人用尺度、Lennox & Wolfe (1984) の改訂版尺度、および Lennox & Wolfe 尺度の日本語版であるところの堀毛 (1986) の尺度を参考に38項目用意した。まず、英語版および日本語版を子供に分かるような日本語に直し、その後日本語らしい表現に改めた。その中で、既述したようなセルフ・モニタリングの「認知的側面」と「行動的側面」によく合致する項目を残し、やや異なる項目は合致するように修正し、さらに適当な項目を追加し38項目とした (付録参照)。

桜井 (1992) の児童用自己意識尺度は、公的自己意識項目10項目、私的自己意識項目9項目で構成されている。これは、Fenigstein, Scheier, & Buss (1975) の原尺度とその日本語版 (諸井、1987) および菅原 (1984) の尺度などを参考に作成された。対人不安傾向、自己顕示欲求、孤独感、コンピテンス等の諸変数との相関分析から、公的自己意識尺度は大人の尺度とほぼ同じ関係を示したが、私的自己意識尺度は従来の研究結果とはほぼ逆の関係を示した。私的自己意識尺度については、小学校高学年段階では自己意識の発達の指標ではないかと考察された。すなわち、「…児童の場合には、むしろ自分の内面にやっと注目できるようになってくる頃であり、そうできる児童の方が自己意識が発達しており自分をよく認識していると見るならば、そうでない (私的自己意識が低い) 児童よりも対人不安傾向が低く、自己顕示欲求 (よい意味で、自己主張) が強く、孤独感それほどなく、自分に自信をもって行動している (コンピテンスが高い) という結果はかなり妥当なもの… (桜井、1992)」であると解釈された。

なお、社交性および劣等感情尺度を含め、いずれの項

目も4段階評定(「はい」、「どちらかといえばはい」、「どちらかといえばいいえ」、「いいえ」)で回答が求められ、当該概念に対応する反応から4－1点が与えられた。

手続き 児童用の質問紙は平成2年5月下旬から6月上旬にかけて朝の会の時間と1時限目の半分の時間をもらい、クラス単位の強制速度法で実施した。

結 果

セルフ・モニタリング尺度原案38項目を因子分析にかけた(Table 1 参照)。主因子法により3因子を抽出しバリマックス回転を施した。第一因子は、寄与率が12.66%で、「友達が自分に対してかくしごとをしているとき、すぐに気がつくほうですか」とか「相手の目を見ていて、その人の気持ちがわかることが多いですか」などの項目に高い因子負荷量が認められることから『情報収集』因子、第二因子は寄与率が8.49%で、「学級会の多数決のとき、大ぜいの人が同じ意見だったら、自分の意見とちがっていても、そちらに手をあげるほうですか」とか「自分の本当の気持ちをかくして、まわりの人と同じ考えをもっているふりをすることがありますか」などの項目に高い因子負荷量が認められることから『同調的行動』因子、第三因子は寄与率が7.53%で、「どんな人とも仲よくする、ということは苦手な方ですか(逆転項目)」とか「どんな人とも仲よくするほうですか」などの項目に高い因子負荷量が認められることから『親和的行動』因子と命名した。Table 1 に示された項目のうちで、各因子負荷量が.41以上で、しかも複数の因子に高い負荷量を示さない項目で下位尺度を作り、以後の分析に用いた。情報収集尺度は項目番号が1, 4, 7, 10, 13, 16, 19, 22, 25, 28, 34, 37の12項目、同調的行動尺度は項目番号が5, 20, 27, 33の4項目、親和的行動尺度は項目番号が14, 17, 18, 32の4項目である。各下位尺度のアルファ係数は情報収集尺度が.81、同調的行動尺度が.57、親和的行動尺度が.74であった。同調的行動尺度を除き、高い内的一貫性が認められた。なお、最終的に残った20項目のみで再度因子分析をし3因子を抽出したところ、各因子に対する因子負荷量は初回よりも高くなり、寄与率も19.7%、10.8%、12.4%(初回の因子の順)となった。ただ、初回と異なり、第二因子には『親和的行動』因子が、第三因子には『同調的行動』因子がきた。下位尺度間の相関はTable 2の通りであり、情報収集尺度と親和的行動尺度のみが有意な正の相関を示した。

Table 3 にはセルフ・モニタリング尺度の学年別×男女別および全体の平均と標準偏差が示されている。下位

Table 1
児童用セルフ・モニタリング尺度原案38項目の因子分析結果 (N=201)

項目	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
1	.55	-.13	-.25	.38
2	.22	.31	.30	.23
3	.32	.16	-.25	.19
4	.58	-.21	-.07	.39
5	-.01	.64	-.15	.43
6	.30	.09	-.40	.26
7	.54	-.10	-.01	.31
8	-.01	.29	.07	.09
9	.07	.29	-.21	.13
10	.59	-.15	-.01	.37
11	.26	-.31	.14	.19
12	.04	.40	-.02	.16
13	.53	.12	-.22	.34
14	.34	-.14	-.41	.30
15	-.13	.26	.09	.09
16	.45	.12	-.14	.24
17	.29	-.11	-.52	.36
18	.13	-.22	-.73	.59
19	.47	.32	-.13	.34
20	.18	.60	.08	.40
21	-.04	.13	-.33	.13
22	.64	-.26	-.19	.51
23	.32	.31	-.02	.20
24	-.01	.09	-.36	.14
25	.55	-.32	.05	.41
26	.13	.42	-.45	.40
27	-.29	.58	-.19	.46
28	.69	-.20	.11	.53
29	.26	.32	.17	.20
30	-.10	.40	.31	.27
31	.37	.10	.28	.22
32	.18	-.21	-.73	.61
33	-.14	.49	-.05	.26
34	.41	.05	-.15	.20
35	.37	.00	.00	.13
36	.01	-.24	-.14	.08
37	.44	.20	-.06	.24
38	.30	.17	-.10	.13
寄与率(%)	12.66	8.49	7.53	28.68

Note. 項目番号は付録のそれと対応する。

Table 2
セルフ・モニタリング下位尺度間の相関係数

	同調的行動	親和的行動
情報収集	-.12	.37**
同調的行動		-.09

Note. ** $p < .01$

Table 3
セルフ・モニタリング下位尺度の平均と標準偏差

尺 度	小 5			小 6			小5・6		
	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
セルフ・モニタリング尺度									
情報収集	30.94 (6.95)	34.71 (5.88)	32.69 (6.74)	29.12 (6.95)	34.89 (6.81)	31.56 (7.46)	29.96 (7.01)	34.80 (6.36)	32.10 (7.14)
同調的行動	8.69 (2.74)	8.78 (2.74)	8.73 (2.74)	8.60 (3.00)	9.34 (2.88)	8.91 (2.97)	8.64 (2.88)	9.06 (2.83)	8.83 (2.86)
親和的行動	11.35 (2.99)	12.44 (2.70)	11.86 (2.91)	8.63 (3.01)	12.48 (2.76)	10.26 (3.47)	9.89 (3.29)	12.46 (2.73)	11.03 (3.31)

Note. () 内は標準偏差を示す。

Table 4
セルフ・モニタリング下位尺度と社交性、劣等感情、自己意識尺度との相関係数

	社交性	劣等感情	公的自己意識	私的自己意識
情報収集	.19**	-.26**	.49**	.61**
同調的行動	-.13	.32**	.28**	-.14*
親和的行動	.59**	-.53**	.15*	.27**

Note. ** $p < .01$ * $p < .05$

尺度ごとに2 (学年: 5年生, 6年生) × 2 (性: 男子, 女子) の2要因の分散分析を行った。情報収集尺度では性の主効果のみが認められ, 男子よりも女子の方が有意に高かった ($F(1, 197) = 24.62, p < .01$)。同調的行動尺度では, 主効果も交互作用も認められなかった。親和的行動尺度では, 交互作用が有意であったので ($F(1, 197) = 11.12, p < .01$)、単純効果の検定を行ったところ, 男子において有意な学年の効果 ($F(1, 197) = 21.58, p < .01$)、6年生において有意な性の効果 ($F(1, 197) = 43.26, p < .01$)、また5年生において性の効果の傾向 ($F(1, 197) = 3.47, p < .10$) が見られた。すなわち, 親和的行動尺度得点は, 男子では6年生よりも5年生の方が高く, 6年生においては男子よりも女子の方が高く, また5年生においても男子よりも女子の方が高い傾向が見られた。

妥当性は既述のように岩瀬ら (1982)、堀毛 (1986) にならない, 公的自己意識, 社交性, 劣等感情との相関で検討した (Table 4 参照, 私的自己意識尺度との相関も便宜的に掲載した)。Table 4 を見ると, 情報収集尺度と親和的行動尺度は, 公的自己意識, 社交性と正の相関が, 劣等感情と負の相関が認められたが, 同調的行動尺度は異なった相関パターンを示した。同調的行動尺度得点の

高い者は, むしろ劣等感情が高く, あまり社交的でない者と言える。

考 察

児童用のセルフ・モニタリング尺度は, 因子分析の結果をもとに20項目, 3下位尺度 (情報収集, 同調的行動, 親和的行動) で構成された。情報収集尺度はセルフ・モニタリングの認知的側面に対応し, 相手の表情や行動からその人の気持ちを読む傾向を測定しており, Lennoxらの「他者の表出行動に対する敏感さ」尺度, 堀毛 (1986) の「読心」尺度と類似している。アルファ係数も.81と高く信頼性が認められる。同調的行動尺度はセルフ・モニタリングの行動的側面に対応し, 本当の自分の気持ちを隠しても多数者に同調する傾向を測定している。ただ, 内容的に「うそ」をつかなければならないことを表現しており, その点で児童が反応しにくかったかもしれない。アルファ係数が.57と低く, 信頼性の面で問題が残ると言えよう。親和的行動尺度は同調的行動尺度と同様セルフ・モニタリングの行動的側面に対応し, 回りの人と仲よくする傾向を測定している。同調的行動尺度とは異なり, アルファ係数は.74と4項目の下位尺度としては高く

なっている。しかし、児童のモラルを測定しているニュアンスは拭いされないように思われる。

3 下位尺度間の相関係数が Table 2 に示されているが、情報収集尺度と親和的行動尺度の間には.37という有意な正の相関が認められた。しかし、セルフ・モニタリングの行動的側面と考えられる同調的行動尺度と親和的行動尺度の間は-.09と無相関であった。3 下位尺度ともセルフ・モニタリングのある側面を測定しているならば、一般的には正の相関が得られてもよいはずである。この結果は、同調的行動尺度が異なった面を測定していることを意味しているものと思われる。

妥当性に関する Table 4 の結果も同調的行動尺度が他の2つの尺度とは異なること示している。今までの理論的研究や岩渕らや堀毛の研究から、セルフ・モニタリングと公的自己意識および社交性とは正の相関、劣等感情とは負の相関が予測できる。しかし、これに合致するのは情報収集尺度と親和的行動尺度であり、同調的行動尺度は公的自己意識との正の相関を除きほぼその反対の結果を示している。同調的行動をする人は、社会的存在としての自分に注意が向いているが、社交性は低く、劣等感情が高いと言えよう。確かにこれまでの研究からすると妥当とは言えないだろう。しかし、こういったケースはつぎのような児童をイメージさせる。すなわち、「自分が回りの人からどう見られているかを気にして（公的自己意識は高い）、回りの人に迎合するように回りの人と同じ行動をとってはいる（同調的行動は多い）が、他者の気持ちを読むことが下手（同調的行動と情報収集の相関が負）であるか、さらには社会的スキルが低いために、対人行動は不適切で、社交性が乏しく、劣等感情が高い」児童である。同調的行動尺度はこれまでのセルフ・モニタリングの枠組からは外れるが、興味深い尺度といえよう。特に、公的自己意識と正の相関がある点は興味深い。いずれにせよセルフ・モニタリング理論の枠組からすると、本研究において作成された3 下位尺度のうち妥当な尺度は情報収集尺度と親和的行動尺度ということになる。

学年差および性差の検討では、桜井（1992）の公的自己意識尺度と同じような結果が示された。すなわち、セルフ・モニタリング尺度として妥当と考えられる情報収集尺度と親和的行動尺度には女子の方が男子よりも有意に高いという性差が認められた。これは公的自己意識の性差と同じであり、よい対応関係を示している。また、親和的行動尺度には、男子において5年生の方が6年生よりも有意に高いことが示され、これも公的自己意識尺度の学年差と同じ結果である。男子は、このころには徐々

に親和的に行動することをよしとしなくなるのであろうか。情報収集尺度にはこのような学年差は認められないため、情報収集はしているが実際には認知的な制御を受けて（たとえば、男らしさの表現として）、親和的な行動を差し控えているものと考えられる。

本研究では、Lennox らの尺度あるいは堀毛の日本語版にある「日常生活における自己呈示の変容能力」あるいは「印象管理」等の『能力』ではなく、日常生活における自己呈示の『行動』に焦点を当てた。それはセルフ・モニタリングとは Snyder (1974) の定義でも示されているとおり、つまるところは能力ではなく、その能力を運用することであると考えたからである。また、児童にとっては、能力を尋ねるよりは具体的な行動を尋ねた方が回答しやすいとも考えたからである。しかし、そのために、能力を問う場合よりも項目内容に、モラル判断の側面が混入してしまった可能性が指摘できる。また、認知的側面と行動的側面の間にギャップが見られることも明らかとなった。こういった点は今後の課題である。しかし、児童を対象とし、行動を指標とする限りかなり難しい問題と考えられる。

引用文献

- Briggs, S. R., Cheek, J. M., & Buss, A. H. 1980 An analysis of the Self-Monitoring Scale. *Journal of Personality and Social Psychology*, 38, 679-686.
- Buss, A. H. 1980 *Self-consciousness and social anxiety*. San Francisco: W. H. Freeman and Company.
- Fenigstein, A., Scheier, M. F., & Buss, A. H. 1975 Public and private self-consciousness: Assessment and theory. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 43, 522-527.
- Graziano, W. G., Leone, C., Musser, L. M., & Lautenschlager, G. J. 1987 Self-monitoring in children: A differential approach to social development. *Developmental Psychology*, 23, 571-576.
- 堀毛一也 1986 自己モニタリングの概念および尺度に関する検討 東北福祉大学紀要, 11, 185-199.
- 岩渕千明・田中国夫・中里浩明 1982 セルフ・モニタリング尺度に関する研究 心理学研究, 53, 54-57.
- Lennox, R. D. & Wolfe, R. N. 1984 Revision of the

- Self-Monitoring Scale. *Journal of Personality and Social Psychology*, 46, 1349-1364.
- 諸井克英 1987 大学生における孤独感と自己意識 実験社会心理学研究, 26, 151-161.
- 本明 寛・久米 稔・織田正美・応用教育研究所 1976 教研式M-G性格検査手引 日本図書文化協会
- 桜井茂男 1992 小学校高学年生における自己意識の検討 実験社会心理学研究, 32, 85-94.
- Snyder, M. 1974 Self-monitoring of expressive behavior. *Journal of Personality and Social Psychology*, 30, 526-537.
- Snyder, M. & Gangestad, S. 1986 On the nature of self-monitoring: Matters of assessment, matters of validity. *Journal of Personality and Social Psychology*, 51, 125-139.
- 菅原健介 1984 自意識尺度(self-consciousness scale) 日本語版作成の試み 心理学研究, 55, 184-188.
- 〔1992年2月24日 受稿〕
〔1993年3月6日 受理〕

資 料

児童用セルフ・モニタリング尺度原案38項目

- 1 友だちの本当の気持ちを知りたいとき、注意して見るところがありますか。(C)
- 2 どうしたら良いのか、わからない時まわりの人がどうしているか見ますか。(C)
- 3 まわりの人が、私に対してこうするべきだと思っているようなことには、あまり興味がないほうですか。(C*)
- 4 どこを見れば相手の気持ちがよくわかるか知っていますか。(C)
- 5 学級会の多数決のとき、大ぜいの人が同じ意見だったら、自分の意見とちがっていても、そちらに手をあげるほうですか。(B)
- 6 先生が自分にどう行動してほしいと思っているかには、あまり興味がないほうですか。(C*)
- 7 まわりの人の様子を見ていて、「あれっ、いつもとちがうな」と気づくほうですか。(C)
- 8 転校生と仲よくするかどうかは、クラスの他の人の様子を見て決めますか。(B)
- 9 クラスではやっている遊びはあまり気にせず、自分のしたい遊びをするほうですか。(B*)
- 10 まわりの人の気持ちをを知りたいとき、よくカンがはたらくほうですか。(C)
- 11 ギャグや冗談をよく言うほうですか。(B)
- 12 学級会で自分の考えが他の子の考えとちがっていても別に気にならないほうですか。(C*)
- 13 まわりの人が何を考えているか、いつも気をつけているほうですか。(C)
- 14 グループにうまくとけこむように行動するほうですか。(B)
- 15 友達には思っていることを何でも言いますか。(B*)
- 16 まわりの人のしていることに気をつけていますか。(C)
- 17 きらいな人とでもうまくつきあっているほうですか。(B)
- 18 どんな人とも仲よくする、ということは苦手なほうですか。(B*)
- 19 クラスで人気のある子や成績の良い子の言うことには、注意していますか。(C)
- 20 自分の本当の気持ちをかくして、まわりの人と同じ考えをもっているふりをすることがありますか。(B)
- 21 自分がいやな気持ちのときは、そのことがすぐ表情や態度に出てしまいますか。(B*)
- 22 相手の目を見ていて、その人の気持ちがわかることが多いですか。(C)
- 23 本当は楽しくなくても、楽しんでいるように見せることが多いですか。(B)
- 24 休み時間にさそわれた遊びが自分のしたい遊びとちがったら、さそいをことわりますか。(B*)
- 25 友達と話をしている、その友達がいやな気持ちになったとき、そのことがすぐにわかるほうですか。(C)
- 26 友達と意見がちがったときは、その人の考えにあわせるようにしますか。(B)
- 27 自分の考えは最後まで主張するほうですか。(B*)
- 28 友達が自分に対してかくしごとをしている時、すぐに気がつくほうですか。(C)
- 29 つきあう友だちやつきあう場所によって、ぜんぜんちがう人のように行動しますか。(B)
- 30 どんな人がまわりにいても、自分の態度や行動は変わらないほうですか。(B*)
- 31 自分についてのうわさに、気をつけていますか。(C)
- 32 どんな人とも仲よくするほうですか。(B)
- 33 たとえ仲間はずれにされそうでも、いやなことはいやと言いますか。(B*)
- 34 まわりの人のきげんが悪いとき、すぐに、自分のせ

桜井：児童用セルフ・モニタリング尺度の作成

いではないかと今までのことを思い出してみますか。

(C)

35 まわりの人の考えていることを知りたいですか。

(C)

36 おかしなテレビをひとりで見ているときよりも、大勢で見ているときのほうがよく笑いますか。(B*)

37 先生が自分のことをどう思っているかに興味があり

ますか。(C)

38 目上の人に対して言葉づかいを変えていますか。

(B)

(注) C：認知的側面から作成した項目

B：行動的側面から作成した項目

*：逆転項目